

2025 年 11 月 23 日

第 56 回関東甲信越静社会教育研究大会 神奈川大会

大会スローガン「社会教育で創る 育む つなげる 共生の未来へ」

林 但

11 月 20 日、21 日にかけて横浜市関内ホール他で表記は開催され、冒頭の開会式で参加の方は 7～800 名（関東甲信越静で 1 都 10 県）と紹介されました。趣旨は、様々な社会問題が取り上げられる中「すべての人が学び続けられる社会を作るために社会教育ができること」をメインテーマとして研究大会を開催する。

社会教育の中にはスポーツも含まれ他県や県内他都市のスポーツ推進委員であり社会教育委員等も何名か見られた、ということはもっと多くの方がおられるようにも感じた。

<歓迎セレモニー&挨拶>

- ・学校法人横濱中華學院：中華獅子舞
- ・主催者・歓迎の挨拶は大会委員長・全国連合会長・神奈川県副知事・横浜副市長の 4 名。

<記念講演> 60 分

- ・講師：来栖良依氏 2020 東京パラリンピック開閉会式企画・演出振付含め総合的に監修。
- ・演題は「誰もが自分らしく生きることができる社会をめざして」

子供の頃「平和活動（舞台を作る、アート）」に関心を持ち、より強く感じたのがリルハンメルや長野の冬季オリンピックで演出や振付をやりたいと思った。大学でアートマネジメントを学んでいる時に、人生の転機の骨肉腫になり以降 3 回手術、障害者手帳を持つ身になる。人生は 180 度変える。翌年右脚に障害を抱えながら社会復帰、「スローレーベル」アーティストと障害者をつなげた市民参加型モノづくりを設立。東京パラリンピックでこだわったことは、①オーディションでキャストは選考②障害ある人を起点にショーを作る③障害の有無を超えて協働の機会になる。

リスクあることにチームで挑む、生きづらさを抱えているのは誰、健常者、障がい者・・・自分らしく生きる場所作っていく。共生社会の実現には障がいある人もない人も互いにその人らしさを認め合い、誰もが自分らしく生きていく社会を築いていくことが必要。

<シンポジウム> 大会スローガンにもとづき、シンポジスト 3 名とコーディネーター 120 分 青木信二氏：厚木市立森の里公民館 前地区館長

- ・38 歳で 2000 世帯の自治会長に、以降青推・教育委員など地域でのいろいろな活動に係る。
- ・中心は地域の子供とし関係するいろいろな団体と緩やかな関係を築くこと。
- ・学校運営協議会、地域運営協議会の活用
 - 学校に役立つ、多様なつながり（例：地域の運動会と学校の運動会 1 本化）
 - 多様な人、多様な教育は学校の成長・地域の成長＝学ぶ
- ・社会教育委員は必殺仕掛け人

阪本陽子氏；東京都台東区教育委員会 社会教育主事

- ・台東区の課題は、地域作り・人作り
- ・行事などにアクセスしにくい人は、外国人
- ・一緒にやっていくために、市民リテラシー、学びの環境を整える
- ・社会教育委員は地域課題を掘り起せ 外国人も日本人も一緒に つなぎ役になれ

渡邊健一氏：相模原市社会教育委員 （一社）視覚聴覚障害アドボカシー研究所・・・研究員

・ 30 年前に全盲でも大学で学びたい。いろいろな委員歴任また、社会教育の講師など 25 年。

・ 点字ブロックは日本人が開発した、音のサインの活用。

・ 聞いて触って、幸せ探し林が自然観察会で障がいある方にやっている手法と似ていると感じた。

・ 社会教育委員はフロンティア精神

■全員で合唱；ゆず 北川悠仁作詞/作曲「栄光の架橋」・・・何か新鮮で心が洗われる

＜2日目：分科会＞ 分科会は5つあるが、林は第一分科会に参加 150 分

第一分科会テーマ：「地域の教育力の再生と社会教育委員の役割」

昨日のシンポジウム、2 日目も同様に助言者の資料を使つての紹介もなく、2 件の事例が紹介された。進行と発表後、少人数でのディスカッション、発表、質疑応答、まとめを助言者が担当。

発表テーマは、星ヶ塔黒曜石原産地遺跡を題材にした学び

～紙芝居を作った私たちの物語～ 長野県下諏訪町（人口2万人）

地域の魅力をどう子供たちや地域の人に伝えられるかを考えた。その中で出たのが紙芝居を使って星ヶ塔の物語を伝えていこうと委員8名で取り組んだ内容。当初は大学と連携していたが、継続して関わるのがむづかしいということでファンタジー的な要素も取り入れ委員で取り組んでいく。2年前の長野大会で紹介、図書館祭りや地域のイベントでも紹介、Youtubeでの公開にも取り組まれた。協働の力で創る社会教育はできたが今後の取り組みをどうするか議論中。

発表テーマは、子どもと大人が共に育つ社会の構築を目指して 海老名市（人口14万人）

10名の委員で構成・年6回の会議で、R2年から6ヶ年計画で上記テーマ 子どもと大人が共に育つ社会の構築を目標に掲げていられる。団体（スポーツ・文化・地域の芸能・・・）との連携し、「ふれあいフェスタ」や上記団体の他に高校生や大学生も含め「いきいきシンポジウム」を行った。こどもを中心に取り組み社会教育委員の自覚は高まり成果があった。しかし、社会教育委員の関係する団体だけであり、団体の固定化や大人への働きかけ方、高校生・大学生への巻き込み方について方法を模索していくとの事。

■少人数でのディスカッション・全体発表（25分+30分）では2件の発表を聞いての感想や各自の市の状況他に話し合う。聞いていて感じたキーワードは、**学校運営協議会、PTA（心地よい場所：自分も楽しむ）、委員の選び方、街づくり＝人作り**であった。

《参加して感じたこと・気づいたこと》

(1)スポーツ推進委員に比べ規模は小さいが熱量ははるかに大きい、座席の早いもの勝ちで自由。

(2)表彰式はなく、シンポジウムも分科会も質疑応答や討議も十分な時間もある

(3)市町によって委員の選び方に多少差があり、規模の小さい程固定観念なく委員を指名？



開会式 大会会長挨拶



シンポジウム



分科会：紙芝居の場面